



TOPICS

Urban Data Challenge 2018



➤ アーバンデータチャレンジ (UDC) のご紹介

G空間情報センターを運営する(一社)社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)では、2013年からアーバンデータチャレンジ(UDC)という活動を継続しています。コンテストに向けたディスカッションやオープンデータを用いた地域課題解決の事例報告のワークショップ等を通じて、オープンデータやビッグデータの整備・利活用、データを活用した地域課題の解決に取り組む活動です。

➤ 2018年の取組み予定

今年はいよいよ全国すべての都道府県ブロックを地域拠点として、地理空間情報の流通や利活用を各地で促進すると共に、地域間の連携の強化など活動の活性化に力を入れていきます。各地域拠点では、アイデアソンやハッカソン、まち歩きイベント等を開催し、地域課題の発掘や、課題解決のためのアイデア創出、アプリ開発、継続的な活動の醸成を行います。

➤ UDC2018キックオフ

今年の活動の始まりとなる全体イベントを開催しますので、ぜひ足をお運びください。

7月18日(水)@東京大学駒場キャンパス

(詳細) <http://urbandata-challenge.jp/news/2018-1st-symposium>

➤ センターとの関わり

地域拠点の活動において、センター登録データを活用いただく、地域で整備されたデータをセンターに登録いただく等の活用をいただいています。

(参考) <http://urbandata-challenge.jp/>

アクセス状況

➤ アクセス数

- ✓ 登録ユーザー数 : 3,019名(7/1現在)
- ✓ 期間アクセス数 : 198,143件
(5/1-6/30)

➤ 登録データ (7/1現在)

- ✓ 登録組織数 : 428組織
- ✓ データセット数 : 2,279セット
- ✓ ファイル数 : 27,003ファイル

上位アクセスデータ

集計期間 : 2018年5月1日~6月30日

1. リアル3D都市モデル/サンプル画像(品川)
(アジア航測株式会社)
2. その他の公共施設/資源物回収拠点一覧(民間)
(22130_静岡県_浜松市)
3. 将来人口・世帯予測ツール/利用規約(国土交通省 国土技術政策総合研究所)
4. 地理院地図のデータ(地理院タイル及び3Dダウンロードデータ)/地理院地図のデータ(地理院タイル)
(国土交通省 国土地理院)
5. CS立体図作成ツール/CS立体図作成 QGISプラグイン
(長野県林業総合センター)
6. 通行止め情報/道路情報提供システム(九州地方整備局)
(国土交通省 道路局)
7. 通行止め情報/道路情報提供システム(近畿地方整備局)
(国土交通省 道路局)
8. リアル3D都市モデル/サンプル画像(新宿)
(アジア航測株式会社)
9. 将来人口・世帯予測ツール/将来人口予測結果イメージ
(国土交通省 国土技術政策総合研究所)
10. 将来人口・世帯予測ツール/13 東京都
(国土交通省 国土技術政策総合研究所)

お知らせ

- 2018.06.07【徹底】G空間データマスタークラス
(6/25, 26:東京開催)
- 2018.05.25【重要】次世代型市民協働プラットフォーム
"My City Report"コンソーシアム準備会の参加団体を募集します!
- 2018.05.25
-【重要】土木学会インフラデータチャレンジが始まりました!
-【重要】データ提供APIサービスの提供について~
断面交通量データを皮切りに
-【重要】「データ利用会員」サービスの提供開始について

データ公開情報

- 2018.06.20【公開】2018年6月18日大阪府北部を震源とする地震 通行実績マップを公開しました
- 2018.06.08【公開】松江駅構内人流センサデータ、2018年5月分を公開しました。(提供:一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会 人流解析チーム)
- 2018.06.05【公開】工学的基盤における速度波形(提供:内閣府防災「南海トラフの巨大地震モデル検討会」及び「首都直下地震モデル検討会」の両検討会)
- 2018.05.22【販売】MapFanDBデータの販売のお知らせ(提供:インクリメントP株式会社)
- 2018.05.17【更新】指定緊急避難所データ(提供:一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会)
- 2018.05.10【公開】松江駅構内人流センサデータ、2018年4月分を公開しました。(提供:一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会 人流解析チーム)

コンテンツ紹介

Pick UP !! “My City Forecast” 東京大学

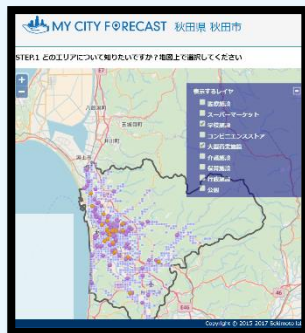
現状の人口分布・施設配置データをもとに、2015年～2040年に想定される居住地域の環境を可視化するものです。簡易なシミュレーションを通し、将来その通りの都市構造になった場合に市民が暮らす環境がどう変わるのか？を14の指標を通して表示します。

■詳しい使い方は以下のサイトをご覧ください。

https://www.geospatial.jp/gp_front/showcase/gic-mcf

■有償サービスにてカスタマイズ利用が可能です。詳細は以下のサイトをご覧ください。

<https://www.geospatial.jp/ckan/dataset/mcf>



※画面は秋田県のイメージです。

注目の新規登録データ

歩行空間ネットワークデータ等 (提供：国土交通省政策統括官)

道路上の段差や幅員、スロープなどのバリアフリー情報を含んだ歩行経路の空間配置及び歩行経路の状況を表すデータ並びに施設の名称や位置情報、バリアフリー設備の状況を表すデータです。

歩行経路を示すリンク及びリンクの結節点を表すノードで構成されています。

「皇居外苑、日本武道館を含む千代田区、中央区周辺データ」を追加しました。



G空間情報センター活用Q&A

Q) G空間情報センターのバナーリンクを利用することは可能でしょうか？

A) はい。ご要望に基づき、G空間情報センターのホームページに掲載予定です。別途サイト上でお知らせいたします。



※トップページの一番下の赤囲み部分に、「このサイトのリンクについて」という項目で表示される予定です。

センター運営担当者レポート

➤ 6月25日/26日の二日間にわたり「徹底！G空間データマスタークラスセミナー」を開催いたしました。



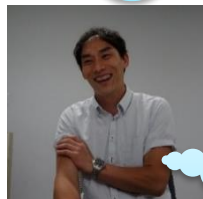
参加者の声

色々なデータがあることが分かったので、自分が持っているデータと組み合わせでチャレンジしたい。



矢崎エナジーシステム株式会社
望月克彦様

興味がある者同士が集まって議論できるのはよいアイデアだ。



秦野市役所
菊地秀夫様

➤ 本セミナーは、最新のデータや政府の動向を踏まえ、G空間情報を活用したアイデアの出し方やアイデアの可視化のテクニックを、実習や議論を通じて体得することを目指します。
今回の参加者は10名。測量・建設コンサルタントを中心に、自治体、GISベンダー、製造業と多業種の方々にご参加いただき、充実した時間となりました。

➤ G空間情報センターには様々なG空間情報が登録されています。これらのG空間情報を組み合わせ、そこに様々な人がそれぞれの知恵や価値観を加えることによって、単一のG空間情報では成しえない新たな価値や市場を生み出すことができます。
多様な背景をもつ方々にご参加いただいた本セミナーではその可能性を改めて実感することができました。

➤ G空間情報センターがそのような新たな価値を創造する場となるよう、これからも積極的にセミナーを開催いたします。
どうぞ奮ってご参加ください。

